

第6次行田市総合振興計画の策定に向けたワークショップ

みんなで目指すまちづくり会議

提言書

令和元年 12 月

はじめに

「みんなで目指すまちづくり会議」は、新たな総合振興計画の策定にあたり、市民の意見を計画策定段階から反映させること、また、市民の視点から今後のまちづくりを検討していくことを目的として設置されました。メンバーは、公募及び住民基本台帳より無作為抽出された1,000人の中から、この取り組みに共感した23名の市民が集い、ワークショップを通じてそれぞれの想いを語り合いました。

会議は、令和元年10月から11月の期間中4回にわたり開催され、「行田市の良いところ」、「目指したいまちのイメージ」、「そのためにやるべきこと」等について議論を深め、この提言書を取りまとめました。

内容については、私たちが目指したいまちのイメージに沿って、それぞれが提言したいことをまとめておりますので、第6次総合振興計画に掲載すべき全施策を網羅しているものではないかもしれませんが、しかしながら、本会議において私たちが議論してきた成果は、行田市の未来に一石を投じるものと考えますので、提言書の内容について、これから開催される審議会等においても十分に斟酌いただき、行田市の未来を展望した計画づくりに反映していただきたいと存じます。

おわりに、みんなで目指すまちづくり会議において市民同士の新たなつながりを持てたことに感謝するとともに、本提言書が令和3年度からスタートする第6次総合振興計画策定の一つの礎となることを強く願い、ここに提言いたします。

みんなで目指すまちづくり会議参加市民一同

目 次

第1章 「みんなで目指すまちづくり会議」の概要	1
第2章 「みんなで目指すまちづくり会議」からの提言	4
第3章 8つの目指したいまちのイメージ	6
1 子育てしやすい子どものまち	6
2 誰もが活躍できるまち	8
3 人と人との結びつきのある安心して暮らせるまち	10
4 ごみのないきれいで快適なまち	12
5 市の良いところをもっとアピールするまち	14
6 賑わいがあるまち	16
7 快適な道路交通環境のあるまち	18
8 地域で安心して暮らし続けられるまち	21

第1章 「みんなで目指すまちづくり会議」の概要

みんなで目指すまちづくり会議では、第6次総合振興計画を策定するにあたり、市民の視点から行田市のまちづくりを検討していくため、ワークショップ方式で全4回の話し合いを行いました。

第1回会議では、総合振興計画の概要や策定体制、この会議の位置づけ、近年の社会経済状況の変化等についての説明を受けた後、ワークショップに入りました。ワークショップでは、A、B、C、Dの4班に分かれて、第1回のテーマである「行田市の良いところを市外の人に自慢するとしたら（案外知られていないもの、気付いていないけど実はすごいもの、もっと活用できそうなものなども含め）」について、意見を出し合いました。出された意見は、内容が似たものをグルーピングし、それぞれに表題を付け、最終的には班ごとに話し合いの結果を発表しました。

第2回会議では、「自分の目指したいまちをイメージする」をテーマに話し合いを進め、「暮らし」「賑わい」「歴史・環境」の3つの分野について目指したいまちのイメージをフセンに記入をしながら模造紙に貼り出していました。その後、内容が似たものをグルーピングし、それぞれに表題を付け、班ごとに話し合いの結果を発表しました。

第3回会議では、第2回にあげられた「目指したいまちのイメージ」を大きく8つの方向性に集約し、目指したいまちのイメージを実現するための前提となる行田市の「現状・課題」、また、課題を解決するために「やるべきこと」について議論を進めました。

第4回会議では、第3回の結果を踏まえ、8つの目指したいまちのイメージについて、「現状・課題」「やるべきこと」に加え、「市民ができること」についても意見・アイデアを出し合いました。最後に、班ごとに発表し、メンバーの意見を全体で共有しました。

このような検討の過程を経て、この提言書は生まれています。

【会議全体のプログラム】

	開催日時・場所	テーマ
第1回	10月5日(土) 教育文化センターみらい 第2学習室	<p>行田市の状況を共有しよう <レクチャー形式></p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合振興計画の概要や策定体制、本会議の位置づけ、行田市の状況などについて説明します。 ・ワークショップの目的や進め方を説明します。 <p>行田市の良いところを市外の人に自慢するとしたら？ <これ以降はワークショップ形式></p> <ul style="list-style-type: none"> ・フセンに書いて発表しあい、模造紙に貼り出します。 ・似たもの同士のフセンを整理分類してグループ分けしたものに表題を付けます。 ・グループごとに発表し、参加者全員で内容の共有化を図ります。
第2回	10月19日(土) 商工センター 403 研修室	<p>自分の目指したいまちをイメージしよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「暮らし」「賑わい」「歴史・環境」の3つの分野について目指したいまちのイメージを、フセンに書いて発表しあい、模造紙に貼り出します。 ・似たもの同士のフセンを整理分類してグループ分けしたものに表題を付けます。 ・グループごとに発表し、参加者全員で内容の共有化を図ります。
第3回	11月16日(土) 教育文化センターみらい 第2学習室	<p>目指したいまちを実現するためには？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第2回であげられた「目指したいまちのイメージ」を実現するための前提となる行田市の「現状・課題」、また、課題を解決するために「やるべきこと」について、フセンに書いて発表しあい、模造紙に貼り出します。 ・似たもの同士のフセンを整理分類してグループ分けしたものに表題を付けます。
第4回	11月30日(土) 教育文化センターみらい 第2学習室	<p>目指したいまちを実現するために「やるべきこと」「市民ができること」は？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第3回の結果を踏まえ「目指したいまち」の実現に向けて、「やるべきこと」「市民ができること」をフセンに書いて発表しあい、模造紙に貼り出します。 ・各グループが話した内容について、グループごとに発表し、参加者全員で内容の共有化を図ります。

○「みんなで目指すまちづくり会議」参加者名簿

氏名(50音順)
大谷 智恵子
加ヶ寄 鈴音
金子 尚志
北谷戸 春樹
黒澤 寛之
小池 宏
木檜 佳菜
小林 章浩
渋谷 洋子
杉 夢夏
鈴木 光子
田島 奈三江
田添 紀江
田仲 暁美
根岸 昭之
根岸 桃子
橋本 絵里子
檜和田 樹子
藤田 烈
松下 真由美
茂木 孝雄
森 明子
渡辺 国雄

(敬称略)

計 23 名

第2章 「みんなで目指すまちづくり会議」からの提言

みんなで目指すまちづくり会議では、参加者からあげられた目指したいまちのイメージを8つに集約しました。以下の8つの目指したいまちのイメージを踏まえ、行政と市民が協力しながら、これからのまちづくりを進めていくことが重要と考えます。

1 子育てしやすい子どものまち

地域の宝である子どもを、安心して産み育てることができ、親が子育ての喜びを感じることでできる環境を目指します。また、子どもの成長を支援できる地域の大人を増やすなど、地域ぐるみでの子育て支援のあるまちづくりを提言します。

2 誰もが活躍できるまち

人口減少社会では、市民一人ひとりの力が重要となります。年齢や属性、身体的な違いなどにとらわれない、幅広い社会参加を促す環境が整備された誰もが活躍できるまちを目指すことを提言します。

3 人と人との結びつきのある安心して暮らせるまち

少子高齢化や核家族化などにより、地域の中で孤立する人が増えています。地域でのつながり・支え合いの仕組みをつくり、人と人との結びつきが安心した暮らしにつながるまちづくりを提言します。

4 ごみのないきれいで快適なまち

ごみのないきれいなまちづくりは、市民の心の反映でもあります。市民一人ひとりがごみ問題について関心を持ち、きれいで住みやすいまちづくりを提言します。

5 市の良いところをもっとアピールするまち

自分のまちをアピールするためには、市民が自分たちのまちをよく知り、誇りを持つことが必要です。（都市ブランドとは、対外的なイメージであるとともに、市民が行田らしさを実感し、誇りを持つことでもあります。）市民や来訪者にとって価値のあるその魅力を、積極的に発信するまちづくりを提言します。

6 賑わいがあるまち

人口が減少していく中でも、まちの活力を生み出す基盤である産業を活性化し、まちの元気につなげます。地域資源を生かし、「見る」「食べる」「買う」「楽しむ」場として賑わいのあるまちづくりを提言します。

7 快適な交通環境のあるまち

快適な道路交通環境は、市民の暮らしを支える重要な基盤です。幹線道路や生活道路の整備は進みつつありますが、子どもや高齢者、障がいのある方も安心して利用できる歩道の整備や、公共交通の確保など、快適な交通環境のあるまちづくりを提言します。

8 地域で安心して暮らし続けられるまち

地震や集中豪雨など、災害への不安が増えています。災害に強いまちを築いていくため、安心・安全の担い手である市民の災害への取組みを支えていくことができるよう、危機管理体制のあるまちづくりを提言します。

(4) 通学路の整備

◎現状・課題

- ・歩道橋の老朽化

☆やるべきこと

- ・スクールバスの運行
- ・歩道橋のメンテナンス●

(5) 学力の向上

◎現状・課題

- ・学校のレベルの向上、国語・英語等●●●

☆やるべきこと

- ・1クラス2人先生が付く
- ・受講料がタダまたは安い寺子屋を作る
- ・学童保育室などで無料の補習塾があるといい●●●

★市民ができること

- ・ものづくり大学の学生（サークル）などに協力してもらいものづくり教室を開く●

(6) 子育て支援

◎現状・課題

- ・子育てしやすい→預け先(安心先) 幼・保、小、中、高、大

☆やるべきこと

- ・家政婦さんの派遣情報が欲しい
- ・出産しやすい市にする（産婦人科の設備を良くするなど）
- ・学童の指導員になれるチャンスを増やしていく

【発表の様子】



2 誰もが活躍できるまち

「誰もが活躍できるまち」を目指すために、高齢者の就労促進、子育てしながらの就労支援など、地域人材の有効活用について課題があげられました。これらの課題に対して“やるべきこと”“市民ができること”としては、「高齢者、障がい者向け求人を市報に掲載する」「子ども食堂(地域食堂)を作る」「使っていない家や部屋などの貸し出し」「高齢者の方が小・中学校を訪問して昔遊びなど子どもに教える」などの意見・提言があげられました。

【提言のまとめ】

(1) 高齢者の就労促進

◎現状・課題

- ・高齢者も体力や希望に応じて安心して働けるシステム ●●●●●●
- ・高齢者、障がい者の方が希望する職種が分からない

☆やるべきこと

- ・高齢、障がい者向け求人を市報にのせる ●●●
- ・高齢者が活躍でき、収入が得られる仕組みづくり ●

(2) 子育てしながらの就労支援

◎現状・課題

- ・子供を育てながら仕事をするができるシステムが必要

☆やるべきこと

- ・子ども食堂(地域食堂)を充実させる ●●

★市民ができること

- ・支援団体の(NPO等)広報の場をつくる Twitter・FBなどの活用

(3) 地域人材の有効活用 ●

◎現状・課題

- ・適材適所 ●●●●
- ・地域の人材発掘(有効活用) ●●●

☆やるべきこと

- ・若年層が積極的に参加できるルール作り ●●

★市民ができること

- ・使っていない家や部屋などの貸し出し ●

(4) 行田の歴史文化を子どもたちに伝える

◎現状・課題

- ・高齢者から子供へ 歴史を伝える、遊ぶ ●●
- ・職業訓練や体験をできるよう(働く事を学ぶ)

★市民ができること

- ・行田が舞台になった映画作品などを高齢の方が中心となり学校で流していく

- ・高齢者の方が小・中学校を訪問して昔遊びなど子どもに教える ● ● ●
- ・はにわやまが玉を実際に作れる体験を増やしていく ●

(5) LGBT 等の情報が欲しい

◎現状・課題

- ・他の市町村の様子が知りたい LGBTs、パートナー制度

☆やるべきこと

- ・LGBTs の方が働きやすい環境を整えられるような企業向け研修を実施 ●

★市民ができること

- ・LGBTs 等を皆が正しく理解する ● ● ● ● ● ● ● ●

【発表の様子】



3 人と人との結びつきのある安心して暮らせるまち

「人と人との結びつきのある安心して暮らせるまち」を目指すために、人と人とのつながりづくり、バリアフリー対応、さまざまな世代が交流できる地域づくりなどの課題があげられました。これらの課題に対して“やるべきこと” “市民ができること”としては、「自治会の改革」「支えあいマップの強化と活用」「自治会について良く知ってもらう」「自治会と子供会（学校区）の統一」などの意見・提言があげられました。

【提言のまとめ】

(1) 人と人とのつながりをつくる

◎現状・課題

- ・ 共かせぎが多く日中留守のため隣近所のつながりが少ない ● ●
- ・ 昔からの人と最近からの人と交流がとりづらい
- ・ 地域によって近隣とのつながりの差がある ● ●
- ・ 災害時等に高齢者・障害者に対して介助できているか？

☆やるべきこと

- ・ 自治会の改革（住民全員参加） ● ● ●
- ・ 自治会の加入者を増やす ●
- ・ ささえあいマップの強化と活用 ● ● ● ●

★市民ができること

- ・ 自治会の役割について正しく理解する ● ● ●
- ・ 転入者に対し、自治会のことを説明する

(2) バリアフリーへの対応 ● ●

◎現状・課題

- ・ バリアフリーに対応する場所が少ないように思える

☆やるべきこと

- ・ バリアフリーマップを作る
- ・ 新しく整備する時はバリアフリー対応にする

(3) さまざまな世代が交流できる地域づくり

◎現状・課題

- ・ 交流などのイベントが年々少なくなっている ●
- ・ 子供がイベント参加に興味を持っても親の負担が大きく不参加の家庭が多い ● ●

☆やるべきこと

- ・ 地域の伝統文化を若い人に伝えていく ● ● ●
- ・ 定期的に市民によるスポーツ大会を開催
- ・ 小学校・中学校の学区を越えた交流をする ●
- ・ 自治会と子供会（学校区）の統一 ● ● ● ● ● ● ● ●
- ・ イベント（全世代が交流する）を増やす

【発表の様子】



4 ごみのないきれいで快適なまち

「ごみのないきれいで快適なまち」を目指すために、ごみ収集ルールの徹底、身近な環境への配慮などの課題があげられました。これらの課題に対して“やるべきこと” “市民ができること”としては、「子どもたちへのゴミ教育」「ゴミをポイ捨てしない」「マナーを守る」などの意見・提言があげられました。

【提言のまとめ】

(1) ごみのないきれいなまち

◎現状・課題

- ・きれいなまちが基本。心が豊かになる。
- ・道路や空き地にごみを捨てる人がいる
- ・住宅の敷地から雑草が道路に出ている

☆やるべきこと

- ・ルールを守る ●
- ・子どもたちへのゴミ教育 ●●●●●●●●
- ・ゴミ収集の料金を徴収する(自治会費を払わない人)

★市民ができること

- ・ゴミをポイ捨てしない ●●●●
- ・子供会でゴミ教育に関するイベントを開催する ●

(2) ごみ収集ルールの徹底 ●

◎現状・課題

- ・収集日、収集場所が守られていない事がある ●
- ・ごみ収集日よりも前にごみが出ている
- ・ゴミ収集回数の統一（地区によって回数が違う） ●
- ・今後のゴミ焼却場はどうなるのか？

☆やるべきこと

- ・ゴミカゴの統一化 ●
- ・ゴミ箱の適正な設置
- ・罰則制度を作る（ゴミをポイ捨てした場合）

★市民ができること

- ・ゴミは指定場所、指定日以外出さない ●●
- ・マナーを守る ●●

(3) 身近な環境への配慮

◎現状・課題

- ・犬のフンが多い
- ・歩道、自転車道に雑草が目立つ
- ・空き家などに動物が住み着いている。排泄物の問題

☆やるべきこと

- ・ペットの散歩マナーを周知
- ・除草の回数を増やす
- ・地区ごとに美化運動を実施

★市民ができること

- ・空き家や空き地も自分のものは自分で管理する
- ・ペットの散歩マナーを守る
- ・美化運動などに積極的に参加する

【発表の様子】



(2) 積極的な情報の発信

◎現状・課題

- ・広報されているかもしれないがあまり目にしない●●

☆やるべきこと

- ・イベントなどの情報提供をもっと発信する
- ・SNS やフェイスブック更新を頻繁に
- ・ポケモン活用。外から人をよびこむ。年配の方も健康づくりでウォーキング
- ・行田をバズらせる●
- ・ゆるキャラの見直し（かわいくないため）
- ・行田市の施設などにホームステイの出来る家の情報を出す
- ・JR の主要駅に（大宮・高崎など）行田の情報を出す

★市民ができること

- ・観光イベント（ツーリズム Expo など）に行田市民が出て PR する●
- ・市民が良いところをユーチューブなどに投稿する、SNS 発信●
- ・インフルエンサーになる、インフルエンサーを作る●
- ・行田の観光大使を市民から募る
- ・新しいマスコットキャラを考える●●●●●●●●●●

(3) その他

- ・自然災害の少ない事●●
- ・市民大学がある●

【発表の様子】



6 賑わいがあるまち

「賑わいがあるまち」を目指すために、商店街の活性化や観光などへの積極的な取組みなどの課題があげられました。これらの課題に対して“やるべきこと” “市民ができること”としては、「クラウドファンディングに挑戦」「LED 飾り付けコンテスト」「住んでいる市民がどう盛り上がるか考える」などの意見・提言があげられました。

【提言のまとめ】

(1) 商店街の活性化

◎現状・課題

- ・シャッターが閉まっている商店街

☆やるべきこと

- ・空き店舗を活用する
- ・また行田に來たいと思う魅力的なものをつくる。リピーターを増やす ●●●
- ・JR 行田駅の周囲に飲食店や商業施設をつくる
- ・ランドバンク
- ・結婚式場を市内を増やす ●
- ・料亭を市民が利用しやすくするためリーズナブルなメニューを増やす（キャンペーンとして） ●

★市民ができること

- ・クラウドファンディングに挑戦 ●●●
- ・自宅の LED 飾り付けコンテスト ●
- ・なるべく市内で買い物する

(2) 地域の活性化

◎現状・課題

- ・地区内で交流が少ない
- ・若い人と高齢者のコミュニケーションが希薄 ●
- ・保守的な人が多い(変わろうとしない)

☆やるべきこと

- ・若者の就職先を増やす
- ・他力本願を辞める(市民自体の活性化)
- ・住んでいる市民がどう盛り上がるか考える(意識の問題) ●●●●●
- ・市民と議員の会話ができる交流のまち ●●●
- ・インバウンドに力を入れる
- ・グリーンアリーナにゴーカート場を作る
- ・大きい商業施設の誘致 ●●●
- ・夜市
- ・行田市内の中学校の運動会を一般に見られるようにする
- ・自動運転バスの導入 ●
- ・移動手段の確保(バス、タクシー) ●●

- ・JR 行田駅から17号バイパス間の開発 ●●●●
- ・市内の旅館を市民に泊まりやすくするキャンペーンをする（1泊1,000円など）

★市民ができること

- ・月に1回祭り

(3) 観光などへの積極的な取組

◎現状・課題

- ・近隣の市町村に遅れをとっている(観光など)

☆やるべきこと

- ・行田市のイメージビデオを放映する(アニメなど)
- ・自宅イルミネーションを応援！ ●
- ・行田一周ツアーを計画
- ・持田駅や武州荒木駅からのウォークツアー（古い街並みが好きな人に） ●
- ・125号バイパス沿い(古代蓮公園に近い場所)に道の駅をつくる ●●
- ・持田インター付近に店を増やす
- ・彩々ファームを道の駅として大きくきれいにする
- ・古代蓮の里園内にアスレチックのような遊び場を作る ●●

★市民ができること

- ・行田市で結婚したカップルを市民全員で祝福する ●

【発表の様子】



7 快適な交通環境のあるまち

「快適な交通環境のあるまち」を目指すために、安全に歩ける歩道をつくる、交通安全対策に取り組む、道路環境の整備などの課題があげられました。これらの課題に対して“やるべきこと”“市民ができること”としては、「色別歩行者レーン、自転車レーンの整備」「市民を対象とした交通安全教室を開催」「今回のワークショップのような啓発活動を増やす」などの意見・提言があげられました。

【提言のまとめ】

(1) 安全に歩ける歩道をつくる

◎現状・課題

- ・歩道が凸凹●
- ・道路が狭く、自転車と歩行者でぶつかる
- ・一方通行の道路が少ない
- ・歩行者用信号が少ない
- ・県道でも歩道がなく、電動車イスや自転車がこわくて移動できない
- ・車道、歩道の区分化が少ない●●
- ・30km（速度規制）道路が少ない
- ・道路上に電柱、標識看板がある

☆やるべきこと

- ・放置自転車の撤去●
- ・電柱の地中化●●
- ・JR 行田駅の整備をもっと大がかりに●●●●●
- ・歩道・自転車道整備（JR 行田駅～市街地）、車道の中に自転車エリア、自転車レーンの充実
- ・外灯を増やして欲しい（ブルーライト）
- ・交通量に見合った幅員
- ・パーソナルモビリティが使いやすい歩道、側道がほしい。●●
- ・歩道が難しい場合は、裏道によった市の中心へ行く道を整備する
- ・色別歩行者レーン、自転車レーンの整備●●●●●●●●●●
- ・JR 行田駅までの自転車道の整備により、通勤通学に自転車の積極的活用●●●

★市民ができること

- ・車、自転車共に走行スピードを遅くする
- ・今回のワークショップのような啓発活動を増やす●●●●●●●●●●

(2) 交通安全に取り組む

☆やるべきこと

- ・市民を対象とした交通安全教室を開催●
- ・交通安全に関するよろず相談所を設ける
- ・小学校や中学校での自転車交通ルール教室

★市民ができること

- ・小学生の見守りだけでなく高齢者の見守りを●

(3) 道路環境の整備

◎現状・課題

- ・歩車道の段差が多い
- ・通学路の幅が狭い●●

☆やるべきこと

- ・車移動だけに頼らない道路整備●
- ・踏み切りを安全にする(遮断機や警報など)
- ・住宅前の砂利を舗装する+U字溝の掃除

(4) 道路標識をわかりやすくする

◎現状・課題

- ・道路標識(白線)が薄い、消えている、道路の線を濃くして欲しい(消えているところが多い)●
- ・右折レーンをもう少し手前から欲しい

☆やるべきこと

- ・右折レーンを延長する
- ・道路の白線表示をきちんと管理する

(5) バスを使いやすくする

◎現状・課題

- ・バスの停留所がほしい、朝混む●●●
- ・自動運転バス時代に対応できる道へ●
- ・市内循環バス使いやすく●●
- ・現状ではバスの時間、本数が少なすぎて使えない。

☆やるべきこと

- ・バスルートの効率化●
- ・県道でバスが停まると混んでしまうので、バスの停車スペースを作る
- ・熊谷・鴻巣ともつながりやすいバスルート
- ・自動運転を将来的に導入し、人的コストを下げる●
- ・使用目的別バスルート案内表示●

(6) JR 行田駅での案内が必要

◎現状・課題

- ・市外、県外、海外から来た人の JR 行田駅からの交通手段がない●

☆やるべきこと

- ・案内図の整備(避難経路図をかねて)

(7) 機能別な道路交通環境

◎現状・課題

- ・住居区、農業区、史跡区に分けた道路交通になっていない●

☆やるべきこと

- ・JR 行田駅周辺を整備し、住居区とする●●●
- ・忍城跡、さきたま古墳を史跡区とし、住居としない●●●

(8) 買い物難民の交通手段

◎現状・課題

- ・買い物難民の（障がい者を含む）交通手段が少ない
- ・デマンドタクシーの車両が少ない●

☆やるべきこと

- ・免許返納後のフォロー（電動自転車・車いすの補助など）●
- ・移動販売車が車でお店を広げることが出来るスペース（公民館の駐車場）の確保
- ・行きはデマンドタクシーで、帰りは病院やスーパーが車を出せないか
- ・交通弱者に的をしぼった交通行政、道路に対するニーズ調査をする（免許返納者、電動車イス使用者）●●●●
- ・交通弱者のニーズを把握するために、包括支援センターや地域ケア会議、当事者、リハビリ専門職団体、介護保険、障害者総合支援法で手動車椅子を使っている方、聞き取り・アンケート等行う●

★市民ができること

- ・運転ボランティア（有償）をする
- ・近所同志で声をかけ合い、買い物や病院へ行く（車に乗せてあげる）

【発表の様子】



8 地域で安心して暮らし続けられるまち

「地域で安心して暮らし続けられるまち」を目指すために、災害時への備えや地域で住み続けるために必要なこと等について課題があげられました。これらの課題に対して“やるべきこと”“市民ができること”としては、「ハザードマップに福祉避難所をのせる」「川の水位を防犯カメラ等でライブ配信」「偏見をなくす幼少からの教育の充実」などの意見・提言があげられました。

【提言のまとめ】

(1) 災害時への備え

◎現状・課題

- ・河川災害の備えが悪い●
- ・台風等災害のときに安心して避難できる場所と案内（障害者、高齢者）が不足
- ・グリーンアリーナが台風の避難時、水没して入れなかった

☆やるべきこと

- ・避難所案内図の整備
- ・ハザードマップに福祉避難所をのせる●●●●●
- ・熊谷市のくまびあのような廃校を活用した避難所を作ってはどうか(エレベーターもある)
- ・過去に浸水した高さがわかるといい
- ・水路は危険だという教育をする
- ・川の水位をカメラ等でライブ配信●●●●●●●●
- ・避難案内図を兼ねた観光案内図の整備
- ・防災グッズを市で販売→数年に1年ハガキで買換よびかけ●●●

★市民ができること

- ・地域住民、近くの方々と声かけ●●●
- ・炊き出しなどの実践的な防災訓練を行う●
- ・地区ごとの班で役割分担の明確化
- ・福祉避難所の見学会をする。関心をもつ●

(2) 安心・安全なまち

◎現状・課題

- ・行田市駅以外の駅前には案内不足の所がある。1人で歩くには危険

☆やるべきこと

- ・食堂などに行田市の安全情報を公開する●
- ・健康を自分で保つためにウォーキング、ジョギングできる歩道・街灯を整備する

★市民ができること

- ・自治会での夜警、見回り

(3) 地域で住み続ける ●

◎現状・課題

- ・健康で過ごせる環境を作る
- ・地域サロンに出て行けない人がいる（虚弱な人）（男性参加者少ない）
- ・年をとっても通院や買い物に行けるか心配
- ・近所の人とのコミュニケーション、あいさつなど ●●
- ・一人暮らしの方への配慮が必要 ●

☆やるべきこと

- ・隣近所で声をかけ合う
- ・サロンの活用
- ・近所に集まれる場所づくり、自治会館など
- ・偏見をなくす幼少からの教育の充実 ●●●
- ・病院の休日担当院を HP などで周知する
- ・近所のホームドクターを日付指定で健康検診を受けられるシステム ●
- ・医療介護の人材・資源の確保（往診医、在宅サービスなど）
- ・地域密着型医療を推進する

【発表の様子】



